

皆さん、おはようございます。1月の始業式に、このメンバーでここに集まるのはこれが最後、とお伝えしたとおり、今、この体育館には3年生がいません。321名の先輩たちは14日に卒業していきましましたので、今日は、1, 2年生が今年度の締めくくりとしてこの場に集まっています。

早いもので、皆さんにとっての本校の1年目、2年目が終わろうとしています。私は4月の始業式と入学式では、勉強や特別活動等、どの場面でも「学び」ができる1年に、と話しました。2学期の始業式では、多摩地区出身のパリオリンピック出場選手のように、大きな舞台は、どこかの別世界ではなく、皆さんの日常のすぐ先にある世界だ、という話をしました。

皆さんはこうして誰かの話を聴く機会が年に何度かあったと思います。「講演会」「講話」と聞いて、皆さんが期待するのは、聞いてすぐに役立つ受験の情報だったり、生き方を劇的に変えてくれるやる気の出るメッセージだったりするのが定番かもしれません。そうでない話は、だから何？という一言で、時間が経過するのを待つだけの「修行の場」になることもあります。今の自分の話も、まだ始まって数分ですが、だから何？という苛立ちの中で「修行」している人もいるかもしれません。

1月に行われた「総合的な探究の時間」の講演会をおぼえているでしょうか。鉄道の車窓から見える看板であるとか、鉄道が敷設された背景によって、そこで暮らす人々の政治に対する意識が違う、等の話でしたが、その話を聴いた後、だから何？という感想しか浮かばなかった人もいたかもしれません。

だから何？という感想は、私たちの日常にあふれています。しかも、だから何？という考えは私たちの中で増えているようにも思えます。しかし、歴史を遡れば、人は目の前にあるつまらないことや誰も気にしないことに、時として興味関心をよせ、その背景を探ったり、原因を突き止めようとして、考えたり、仮説を立てて検証したりしてきました。そのおかげで、物質を構成する原子の存在を突き止めたり、土の中から発掘した文字盤に書かれた情報を読み取って、過去のことを知ったりもしました。文字盤を見ても、だから何？という人だけだったら、文字盤の情報は謎のままだったはずで、世の中の全員が、だから何？という一言で、最低限の自分の周りだけに興味をもっているだけだったら、今も原始時代が続いているかもしれません。

先日の講演は、一人の人が見たもの、心で感じたものが、想像力を掻き立て、知的好奇心を膨らませ、だから何？と言われそうなことにまで興味や関心を寄せることがどれほど重要なことなのかを教えてくれるものでした。あの話を面白いな、と思った人たちは、その感性を大切に育ててあげてください。きっと大きな花を咲かせてくれるはずです。あの日、だから何？で終わった人たちに知ってほしいことは、自分でも気づかないうちに、私たちの世界は小さく、狭くなっ

ていく、ということです。

自分の人生を豊かなものにするためには、世界は広く大きなものであるべきです。世界を広げれば、想定外のことも増えるし、わからないことも増えますが、広くなければそもそも気づかない、知る機会すらなかったかもしれないことに出会えます。世界が広ければ、新たな発見も出会いも増え、皆さんを助けてくれる人や、同じ価値観の人と出会う可能性も広がります。ぜひ、自分の世界を広げ、遠くを見渡せるようになってください。

ただし、自分の世界を広げてくれるチャンスが自分の目の前に来ていることに気づけるかは、自分次第です。だから何？で終わらないよう、興味と関心のアンテナを高く張っておきましょう。誰かに馬鹿にされてもいいし、見下されてもいいので、自分のアンテナがとらえた興味と関心にはいつでも忠実であってほしいものです。だから何？という前に、何かあるかも、と思い、自分で取りに行ってみる、そんな意識をもって前に進んでいってほしいと願っています。

すべてが新たになる春が来ました。これまでの自分を変えるのにふさわしい季節です。学校という世界は4月に始まり3月に終わる「年度」で動きます。「新年度」に向けてぜひ、勇気をもって自分の世界を広げてみてください。

私からの話は以上です。